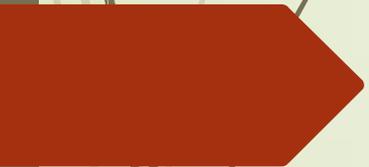


# 友の会 2014年度活動報告

鯉谷 納



# 友の会主催の講演会

## 友の会総会後

講演 1 所得税法56条に関する一考察  
－生計を一にする者の  
所得の帰属について－

講演者 大学院経済学研究科修了生  
松下盛子さん

講演 2 岸和田とレンズ産業

講演者 経済学部准教授  
藤田和史先生

2014年7月19日 浪切ホール



講演する松下盛子さん



講演する藤田和史先生

# 「地域調査研究」

フィールドワークに友の会からも参加  
経済学部准教授 藤田先生が夏季に実施

- ▶ 8月19日 日本レンズ株式会社、西田三レンズ製作所
- ▶ 8月20日 松浪硝子、中野梅レンズ
- ▶ 8月21日 京大原子炉実験所、原子燃料工業株式会社
- ▶ 8月22日 地方独立行政法人大阪府立産業技術総合研究所

この時の様子を学生が作る広報ブログに掲載したところ、その記事をテレビ局が見つけた、2015年7月21日の番組（和風総本家）で紹介された

## 冬季講演会2015.2.14

友の会 金野精一郎会長と  
藤田サテライト長の挨拶の後

DVD「生命（いのち）のことづけ  
～死亡率2倍 障害のある  
人たちの3.11～を上映し  
以後の講演会の参考にした。



挨拶する金野会長



挨拶する藤田サテライト長

## 冬季講演会

昨年引き続き「地域防災」を考えました。  
災害時の避難で留意しておくこと

～避難困難者への対応～

その後和大地域連携・生涯学習センター

西川一弘講師の基調提起が行われた。



- ▶ 東日本大震災では、被災地全体の死者のうち65歳以上の高齢者が6割、障害者は被災住民全体の死亡率の2倍になったこと。
- ▶ これらの避難困難者の命が脅かされる現状と、今後脅かされないようにするためには避難計画を立てること。  
また、その留意点、検討事項の説明があった。
- ▶ 鉄道での避難訓練の様子について専門家の立場から説明があった。

その後 西川先生のコーディネートで、  
自立生活センター・いこらー 東谷太さん  
岸和田市社会福祉協議会の三林達哉さんの  
発表、討論等が行われた。





## 活動を報告する 東谷さん（左）

- ➡ 東谷さんは脊髄損傷者として移動の問題、体温調節の問題や排泄の不安もあり、避難についての課題や問題を話され、様々な場面を想定して情報収集を普段から行う事の重要性を話された。



## 活動を報告する 三林さん（右）

- ▶ 三林さんは勤務する協議会でテーマ型活動、地縁型活動の後押しや引きこもりの若者支援などの担当をされ、高齢者などが個人情報を入れた冷蔵庫に入れて災害に備える「岸和田市きんきゅうカード」の紹介をされた。



サテライト友の会でも冷蔵庫の外側に張ってもらおう防災チラシ「**大きな地震がきたら**」を作っていることを紹介しました。  
防災は人と人とのつながり。普段の努力とつながりの大切さを再認識しました。

# 岸和田 市民フェスティバル への参加



2015年5月3日 岸和田市 中央公園

# 今年はアドバロレーンも登場



和歌山大学  
岸和田サテライト友の会

昨年引き続き  
大学のPRと防災の展示  
防災グッズの製作などで参加



昨年に引き続き  
大学のPRと防災の展示などで参加  
展示テーマ

「備えていますか？自分のために」

- ▶ テント左上に太陽光調理器の展示  
遠くからは何かのパラボラかと目立った
- ▶ テント前に大きめのツナ缶ランプの展示
- ▶ さらにテント前にごみ袋雨ガッパの展示
- ▶ テント内では、ツナ缶のランプの製作、ゴミ袋雨カッパの製作体験
- ▶ 市の危機管理室から借りたパネル展示と防災マップの展示

# 1) ツナ缶ランプの展示と製作体験



## 2) ゴミ袋を使った雨カッパの製作体験



# 展示ブース 広島市八木地区の災害現場のパネル



## 終了後 参加スタッフで記念撮影

昨年を大  
きく上回る  
460名以  
上の参加が  
ありました。



# 和歌山大学ネパール大地震募金

■募金活動に友の会が参加

市民フェスティバルのテントで募金箱を設置、

後日の募金もあわせて11,780円を大学を通じて日本赤十字社へ寄託